



兵役 在日の私は決めた 「男は軍隊に行って一人前」色濃い韓国



日本で生まれ育った在日韓国人の男子大学生が留学先の韓国で兵役に就いた。「男は軍隊に行つてこそ一人前」。韓国社会になお色濃く残る意識に背中をおされた形だが、近年は若者の考え方に変化がみられ、女性にも兵役を課すべきたという議論も出ている。

「見えない市民権 取りに行く」

1月30日、韓国の陸軍に入隊する日を迎えたソウル市内の大学3年生、金世煥さん(24)は高揚感と不安感が入り交じった複雑な気持ちになっていた。「入隊日は経験したことのない感覚に襲われる」。すでに兵役を終えた友人から聞いていた言葉を思い出した。

金さんは日本で生まれ育ち、韓国語もそんなに話せなかった。もともと関西地方の大学に通っていたが、特にやりたいこともなく、1年生の1学期が終わるころには大学に行かなくなった。

●日本で生まれ育ち、韓国で兵役に就いた金世煥さん(1月15日ソウル、河野光汰撮影) ●頭を丸刈りにして入隊した

●金さん提供

「見えない市民権 取りに行く」の大学に合格した。当初、「韓国は外国という感覚だった」。だが、大學生生活を通して韓国に対する愛着がわいた。日韓の学生交流イベントを運営する団体での活動も始め、充実した時間を過ごしていた。一方、疎外感を感じる瞬間もたびたびあった。「お前、いつ軍隊行つたの?」。韓国人の男性との会話で「軍隊」というワードが飛び出すたびに、心にもやもやしたものを抱えた。

金さん自身は日本の永住権を持っており、周囲から「兵役を回避する方法もある」と言われたこともあった。だが、軍隊の話に花を

女性の徴兵 論争に

韓国では近年、女性にも兵役を課すべきだとの論争が活発化し、男女間の分断を広げているとも指摘されている。

男女格差を示す「ジェンダーギャップ指数」で23年の韓国は105位。文在寅前政権は女性登用などジェンダー政策に力を入れたが、これに反発したのが就職難に苦しむ20、30代の男性層だった。

尹錫悦大統領が22年の大統領選で、公約に女性の地位向上に関する施策を担う女性家族省の廃止を掲げると、出口調査で20代男性の約6割が尹氏に投票したとの結果が出た。尹氏を支持する男性36は「兵役で時間を犠牲にしたのに恩恵もなく、女性だけ優遇される」と訴える。だが、女性の徴兵制は社会的な合意など解決しなければならぬ課題が多く、非現実的な状況にある。

韓国の安保や内政に詳しい伊藤弘太郎・キヤノングローバル戦略研究所主任研究員は「所属部隊によっては社会的評価が高まるな

ど、年長者を中心に兵役経験を重視する社会的雰囲気は男性中心社会が続いた韓国特有のものでマッチョイズム(男らしさを重んじる考え方)の一つ」と見る。

一方、ジェンダー平等や多様性に対する意識の高まりに伴う若者の考え方の変化についても指摘する。「今の若者はかつてのような男女格差を感じない層も増え、南北融和の兆しもあった文政権時代には『なぜ平和になるのに徴兵制が続くのか』との不満が出るなど兵役に対する価値観が変わりつつある側面もある」と話す。(ソウル＝河野光汰)